

た人を選んで、借金を申込むことが、第一に肝腎であります。借金上手な人は、第一にそれを選びこの人なら斯ういふ事に同情もあり理解もあり本来好きだから必ず相談に乗つて呉れるといふ、猫の前に鯉節を持つて行くやうに、外れつこのない狙ひをつけて借金を相談する。だから十中八九は成功する。が、借金下手な人は、そんな事は餘り考へない。あの人は自分を信用して呉れてゐるから貸して呉れるだらうとか、あの人は遊金があるから相談に乗つてくれるだらうとか、あの人は同情深い人だから巧く泣きついたら右から左と融通して呉れるだらうとか、單に相手の同情心や信用や金の有無といふやうな事ばかりを考へて借金しようとする。だから甲に相談しては断られ、乙に行つては體よくはねつけられ丙に泣きついては拒絶されるといふやうに、十中八九失敗に終る。これは要するに相手の選び方如何の結果であります。

#### 返済延期交渉雄辯法

一遍こつさりならば兎に角、必要に迫られた場合は、いつ何時なんどきでも飛び込んで、右から左と、容易に借金し得るだけの信用を得るには、最初借りる時、返済期限を豫定より一週間なり十日なりの餘裕をつけておき、豫定通りに返済することが出来たら、約束の期限が来なくても、直に返済するやうにせねばなりません。が、借金下手な人は、約束の期限に餘裕をつけておかないために、豫定通りの結果に多少の狂ひが生ずると、忽ち約束を違へて信用を先つたり、或は約束の期限を經過した後に返済したり、或はギリ／＼の日に返したりする。さういふ遣り方は借金術としては極めて拙劣なもので、そんな事では借金して人の信用を得ることは出来ないものであります。

ところで、若し、約束の期限に返済が出来ないやうな場合は何うするか、何う



すれば相手の感情を害せず信用を墜さず、却つて信用されるかと云ひますと、それは、約束の期限数日前に、其不可能な事が判明したら、或ひは不可能になりはせぬかといふ事が思はれて來たら、期限の當日になつて延期交渉をやつてはいけない、それが判つた時に直に延期交渉へ出掛けるのであります。よしんば、期限までは何日間あらうとも構はない、否、却つて早い方が有効で結果を良くするものであります。そして、其時の延期の乞ひ方は

「かねて御通融を願ひました一件は、返済期を△月△日といふことに御承諾を願つて置きましたが、斯くくゝの事情によつて、豫定より四五日位、這入つてくることがおくれるかも知りませんので、随つて貴下への御返済もお約束の日よりそれだけおくれることになりはせぬかと思ひます。尤も期限までには、あと△日間ございますので、其間に矢張り豫定通り解決することになるかも知りませぬ。が、若し、只今の事情の通りであつた場合、期限當日に御猶豫を願つたの

では、御差支へになる様な事が出來するかも知れないと思はれましたので、経過をお耳に入れ、あらかじめ御猶豫願つておきたいと存じます。」

どいつた風にやる。かうして何日かの延期の諒解を得ておけば、約束の期限から何日かおくれたても信用を害することはない。さうしておいて、若し再變して最初の豫定通り運び、約束通りの期限に返済出來たら、期限の來ない前に、一週間で十日でも早く返済するのであります。斯様な方法にすれば、先方ではこちらの用意周到と誠意とを充分に認めてくれます。もし先方が、その金が返つて來たら他に運用する豫定があつた場合などは、その模様變へをする上にも好都合でありますし、借金上手で策略を弄する者は、時にさういふことを手段として用ひることがあります。實際は約束の期限通りに返済し得るにも拘らず、十日なり十五日なり以前に行つて延期の諒解を得ておき、それから一週間なり十日なりの間をおき、最初の約束期限よりも何日か早く、きれいに耳を揃へて返済する。そして



「過日返済期限御猶豫の御諒解は得ておきました。最初のお約束に背くといふことは、甚だ遺憾に堪へませんので、あの後非常の努力をやりました。その結果幸ひ最初の豫定通りに挽回し、最初お約束の期限内にお返しすることが出来ました。期限までにはまだ数日間ありますけれども、何うせお返ししなければならぬものだし、お返しする以上は、一日半日でも早い方がよいと思ひまして、今日お返しに伺ひました譯です。」

などと云ふ。先方はさういふ策略を弄してゐることは知らないから、すつかり感心してしまふ。その結果は更に一層信用するといふことになるのであります。しかし、それはどの策を弄しなくても、返済期限に間に合はなさうな事情になつたり、確實にそれと判明した場合は、成るべく早く延期の諒解を得ておくことが信用をつなぐ上において必要であります。借金をする場合、時に策略を用ひることの必要な場合もありますが、普通、個人對個人間における、信用貸借の場合

においては、あまり術策を弄することは、餘りよろしくないのみならず、一度び其術策を弄した事が露顯すると、それが爲めに多年の信用を一朝にして失墜することがあります。貸した方でも、術策を弄されたと分つて見ると、あまり面白い感情は起らない、貸借上の利益状態において、何等損失はなかつたにしても、策略を弄されたといふことは、一種不快の感が生ずるものであります。貸した方がさういふ事をした場合でも借りた方がそれと知つて面白くない感情をもつと同様であります。殊に貸した方は、いくらか恩惠的な感情をもつてゐるのが普通でありますから、それに策略を弄したとなると、融通してやつた自分に對して策略を弄するとは怪しからぬといふ悪感を抱くことになる。つまり自己の優越感を傷つけられた不快であります。この融通者の優越感を傷けることは、時に融通者をして損得に拘はらず今後一切融通を拒絶せしむる結果を招來することがあります。即ち臍を曲げさせるやうなことになるものでありますから、策略は寧ろ絶対に弄



しない方が安全であり、多少拙いことがあつても却つて信用をつなぐ所以であります。

#### 相手方の優越感を尊重せよ

それらの事から歸納すると、融通者の優越感を尊重することは借金に成功する秘訣であり、融通者の信用をより長く保留する極意の一つであるといふ眞理が見られるのであります。融通者がどんな鈍物愚物でも、無學文盲でも、すべて經濟的優越感をもつてゐる、金を持つてゐる、人に金を融通することの出来る自分は、社會的優越者であるといふ感情を持つてゐるものであります。被融通者が大臣宰相でも、博士學者でも、頭を下げて金を借りに来る以上は、少くとも其點において自分の方が豪いのだ、強者だ、優越者だと考へる、無智無學な者であればそれだけ、却つてさういふ優越感が強く、誇負心が多いのが普通であります。

その優越感が間違つてゐようと何であらうと、それを傷けるのは、その人にとつては大なる侮辱を感じるものであるから、何だ金を借りる癖に豪さうな事を言ふとか、何だ金も碌にない癖に無禮千萬な奴だとか、非常な不快反感を起す。この不快反感を起させたら、この不快反感を緩和しない限り、借金の相談は不成立に終り、成立後であつたら、二度と再び融通を受けることは不可能であるといつてよいのであります。

借金は要するに一時の融通でありますから、融通者がどんな優越感をもつてゐやうとどんな誇負をもつてゐやうと、そんなことは問題でない筈であります。借金する被融通者から云へば、所要の金を借り得れば目的は達する、その借金といふ目的と、融通者たる貸す人の優越感やプライドとは全然没交渉であります。その没交渉なものを傷けて目的の借金を打壞はすのは下手な遣り方で、寧ろ愚であります。そんな詰らぬ事をして自分の損を招くよりも、寧ろ相手の優越感と全く



没交渉の態度をとるか、或ひは目的の爲の手段として、相手の優越感に油をかけ、プライドに火を點けと煽り立てた方がいゝ。何も追従輕薄を言ふにも當りませんが、豪がる者は豪がらせ、誇るものは誇らせ嬉しがらせ喜こばせておいて自分の目的を達した方が伶俐な遣り方であります。そんな人たちの優越感や誇負心を傷けて借金といふ目的をフイにするやうでは、寧ろ人物において、反つてそんな人たちに劣るものであります。損にはなつても得にならぬ事を言つたり爲たりするのは、世の中を巧みに派らうとする者、借金によつて自分の利便をはからうとする者の、爲すべきことではありません。

#### 借金術に嘘と法螺は禁物

嘘も方便といふことがあります。借金をする上においても、嘘の方便を時に用ひた方が有効であるらしく思はれますが、實際は借金するに嘘は禁物でありま

ず。尤も、一遍こつきりて、二度と再び同じ人から借金をしないと云ふ跡は野となれ主義で借金するのですしたら、それもいゝでせうが、長く信用を得て、いつ何時でも融通路を拵へておいて、萬一の場合に處するといふのでしたら、嘘は絶対に禁物であります。方便は所詮方便であります、一時を糊塗するには有効ですが、永久性がない。殊に借金の如き、信用を基礎とするものにあつては、借金そのものは方便にするにしても、その方便の借金をするに嘘の方便を用ひるのは信用破壊であります。



## 婦人をチャームする座談應待術

### 對談中忘れてならぬ要件

婦人と對談するとき、第一に重要な心得は、對談幾時間に亘るも、相手が婦人であるといふ事を忘れてはならない。談話が長時間に亘つたり、話がはづんで熱をもつて來ると、つい婦人に對してゐるといふことを忘れ、男子にでも話して居るやうな、否、相手が婦人であるか男子であるかさへも、忘れてしまふことが有り勝ちであります。座談雄辯術からいふと、それはよろしくない。何時間せんに熱をもつて話さうとも、始終、相手が婦人であるといふ事を念頭から取り逃がしてはいけません。

なせそれを忘れてはいけないかといふと、婦人は一般に感情性に富み、而もその感情は人と談話する際などには特に鋭敏微妙に働くもので、男子ならば無頓着

に聞き流す事でも、異常な刺戟を感受するものであります。良い事にせよ悪い事にせよ、感度の極めて高いのが女性の通有性であります。この女性の通有性を忘れると飛んだ失敗を招くことがあります。

### こんな事は断じて言ふべからず

婦人は一般的に言ふと、表面では極めて謙讓的で、寧ろ自屈自卑的な事を言つたり爲たりするが、内心はそれと全く反對に、非常に自尊心の強いもので、平つたく云へば己惚の強いものであります。即ち男子に一寸理解の出來ない女性特有の誇負心をもつてゐるものであります。處女は處女として、人妻は人妻として、未亡人は未亡人として、老婦人は老婦人として、それ／＼自己の境遇におけるプライド、また女性としての共通的プライドをもつて居ります。尤もこれは男子でもありますけれども、男子の理智的なプライドなのに反して、婦人のプライドは



寧ろ感情的で己惚れのブライドであります。随つて、男子は相手が男子であつても婦人であつても大いに啓發される事を言はれると、承服して却つて尊敬崇拜するが、婦人はさうでない、何だか甚だしく侮辱された様に感ずる、そして簇々と憎悪心を起し反感を抱き反抗心を燃やすのが通例であります。例へば、今日の男子は性的墮落の傾向が著るしいといつても、相手が男子であれば、そしてさういふ傾向が事實あれば、共鳴はしても自分が侮辱されたとは感じないが、若し婦人であつて、今日の婦人は性的墮落の傾向が甚だしいと云はれやうものなら、よしんば實際さういふ傾向が一般婦人界に顯著であつても、自分が侮辱されたやうに感じて反感を起す者が多いのであります。つまり婦人は、話題が世間といふ廣い範圍に亘つて一般的なものであつても、それが婦人に關した事であると、第三者の立場にあつて考察しないで、直ちに自分を話題中の一人において考へたがる。それだから世間一般の婦人に關して言つた事でも自分が侮辱されたやうに感

じて感情を害するのであります。この婦人通有の誇負心平つたく云へば己惚を傷つけ害するやうなことは、斷じて口にすべからずである。こちらが男子で相手が婦人であつたら、男子の缺點を擧げる場合でも、婦人に關しては成るべく美點長所のみを賞讃する、手取早く云へば婦人讚美、女性讚禮をやるに限る。尤もそれは婦人に對する男子としての禮でもありませんが、さう云はれると、相手の婦人は婦人通有の、また自分の己惚か少しも傷づけられないで、却つてその己惚れが讚美されるやうな形となりますから、好感快感のみが往來して、不快憎惡反感といふやうな感情が少しも燃え上らない。さうして初から終まで快感と好感とを持たせるといふことは、何人との對談においても必要ですが、殊に男子が婦人に對する場合、或ひは婦人同士の場合において特に必要であります。

#### 中斷するな腰折るな



婦人と對談する場合には、相手の婦人が話をしてゐる時に其話を中断するやうなことを言つたり、話の腰を打つたりせぬことが肝要です。總じて婦人の話は言葉數の多い廻りくどいもので所謂媿々として盡きないといつた傾向をもつてゐるものですが、いくら言葉數が多くとも廻りくどくとも、話に一段落つかないうちに「つまり……ですか」とか「要するに御話の御趣意は……と仰有るのですね」とか「イヤそれは違ひます」とか「手取早い話が……といふ譯ですか」などと言つて、話の腰を折つてしまふのは、非禮でもありますが、相手の感情を害するのと夥しいものです。

また、相手の婦人が話を續けてゐる際に、第三者と話をしたり、第三者に事を云ひ付けたりして、中断するのは、話の先を折ると同様に不快な感じを起こさせるものであります。「成程」とか「如何にも」とか「さうですか」とか「御道理です」とか相槌は打つべきですが、その話中に他の事を考へるやうな態度をしたり

随分くどくて面倒だなといつたやうな表情をしたりせぬことも最も大切な事からであります。長くとも面倒でも廻りくどくとも、一通り一段落つくまでは、熱心耳をとめて謹聽するといふ態度を以てせねばならないのであります。

#### 反駁するな豪がるな

特に議論を必要とする様な場合は別ですが、普通の談話では、婦人を相手にする場合はその婦人の言ふ事言つた事が、間違つてゐやうとも、決して正面から露骨に反駁してはいけない。反駁してもしなくてもよい様な話ならば、御道理にしておくに限ります。もし事と次第によつて、反駁の必要ある場合は、寧ろ婉曲にそれとなく反駁するがよろしい。男子ならば、あまり謙遜な態度をとられると、却つて不快感を起すものです。婦人は寧ろ男子に謙遜されるはと愉快に誇らしげな感じをもつものですから、その邊の呼吸をのみ込んで、成るべく逆らはぬ



がよい。

『近頃は一般に婦人が豪くなつて、知識の上でも仕事の上でも、なか／＼男子も敵はなくなりました。柔よく剛を制すで、政治でも實業でも教育乃至宗教でもどうも婦人の方がいゝやうです。』

なんかんとやつたら、大抵の婦人が「何ういたしまして」と口では言つても、心では嬉しがる。よしんばお世辭であることが分つてゐても不快に思つたり反感を抱いたりするものではない。婦權擴張論にかぶれた婦人だつたら、巧みに合槌を打つて大いにメートルをあげさせ

『お説一々御もつともです。世の中が男子ばかりの世の中でなく、家庭が男子ばかりの家庭でない以上、また男女の共同共力によつて國家社會が成立ち、子供が出来、家庭が出来るとしたら、男子と婦人とは人としても亦社會的にも同等の權利同等の立場であるべきが本來で、男主人従不平等の從來の思想や制度

や習慣は、大いに根本から間違つてゐるものだと思はれます。』

どいつた風に煽り立てれば、そんな婦人は宇頂天になつて喜ぶ。どうせ主婦として、人妻として、人の母として先づ婦人は何を考へ何を爲すべきかも知らない癖に女權擴張論などを臆面もなく相手かまはず打廻すやうな婦人に、眞面目になつて反駁を試みたり議論したり説法したりするのは野暮の骨頂、そんな野暮な無駄な骨折をして相手方の氣持を悪くしたり反感を買つたりするのは、損にはなつても得になるものではない。そんなのは巧く調子を合せて豪がらせメートルをあげさせて大いに快がらせるに限りませす。

總じて婦人は感情的であるだけに、自分の言ふ事を反駁されたり訂正されたりすると、冷靜に批判して、自分の言ふ事と相手の言ふ事とが、いづれが果して正しいかど考へないは勿論、多くの場合、それを直ちに一種の侮辱の如く感ずるものでありますから、婦人と談話する場合は、たとへ些細な事でも、その邊によく



注意をして應待することが大切であります。況んや豪がつたりなんぞ爲ようものなら、忽ち反感を買ひ鼻つまみにされます。政治的な事でなくても、家政上の事例へば家庭經濟の取り方だの、育兒上の事、家庭教育の事、或ひは女中などの使用上の事などについて、随分と天狗様な婦人があるものですがそんな事でも、よしそれが間違つてゐやうと却つて不經濟であらうと、先方では得意になつて鼻を高くしてゐるのですから、それを反駁して鼻つま柱をヘシ折るのは、非常に不快感をもたせるものですから、寧ろ當らず觸らずの態度か、却つてお太鼓を叩いて己惚メートルをあげさせるのがよい。さういふ婦人に對しては

『お説を承はつて大變教へられました』

位の事を言つてやると、相手は良い方に教へられたものとは解釋しても、心中自分さげすまれてゐることは些しも氣がつかない。随つて御機嫌上々吉で話を終始することが出来ます。日常談話においては、特に議論する必要のない場合は、

絶対に議論に亘ることは避けた方がよい。對婦人の場合において、特にさうであります。

#### 性慾に關した話は何故禁物か

婦人は一般に性慾に關した事を知りたいといふ思ひは、その熾烈なことにおいて、寧ろ遙かに男子以上であるが、さういふ話を人から聞かされたり、人に質問したりすることは、極めて嫌ひなものであります。それは本當に嫌ひであるかといふと、さうではない、そんな事を聞くのは、婦人として恥づべきことである、そんなことを明けすけに人に聞くのは勿論、人の話してゐるのを聞くだけでも、淫りがましいとか、だらしがなとか、思はれはせぬかといふ怖れ心からであります。良人だとか相許し合つた夫婦同様の戀人だとか、さういふ特別關係の間柄で、寢物語や絶対に人の居ない場所で聞いたり聞かされたりすることには、極め



て大膽であつて、寧ろ積極的ですが、さうでない限り、極めて臆病なものですから、婦人との談話においては、性慾に關した話は一切禁物にしなければならぬのであります。婦人のその共通した心理に對して無頓着に、性慾に關した話をあけすけにしたたら、野暮な人、だらしない人、失禮な人、淫りがましい人といふ風に、すぐに思つてしまふ。随つて人格を下劣なものを思はれてしまふのであります。病氣の話をする際にも、成るべく男女の生殖器に關した話は禁物だと心得べきであります。

しかし、若し婦人の方から、そんな話が切り出された場合は、婦人の話の程度よりも、一步進めた程度において應答すべきであります。といふのは婦人の方では、十だけの程度の事を知りたいと思つても、それをあけすけに言はない。大抵五か六位の程度で慎みを見せるものですから、應答する方では、先方が心中に要求して居る十だけの程度で行けば、婦人の方では大いに満足するものであります。

昭和三年六月十日 印刷  
昭和三年六月三日 發行

不許  
複製

交際應待雄辯法

定價壹圓八拾錢

著者 樋口麗陽

發行者 小野寺秀男

印刷者 大橋章臣

印刷所 大橋印刷所

發行所

東京市麻布區  
我善坊町五〇

秀興社出版部

電話青山六九四七番  
番替口座東京六〇番







536  
357



